

【主な用途】

地下水、排水、鉱山湧水浄化など

【主成分】

人工ゼオライト・シリカ複合体

【使用方法】

所定の流速で汚染水とCAMZ-Wを接触させる。

【対象元素】

Pb、NH⁴⁺-N(特にPb吸着効果に優れている。)

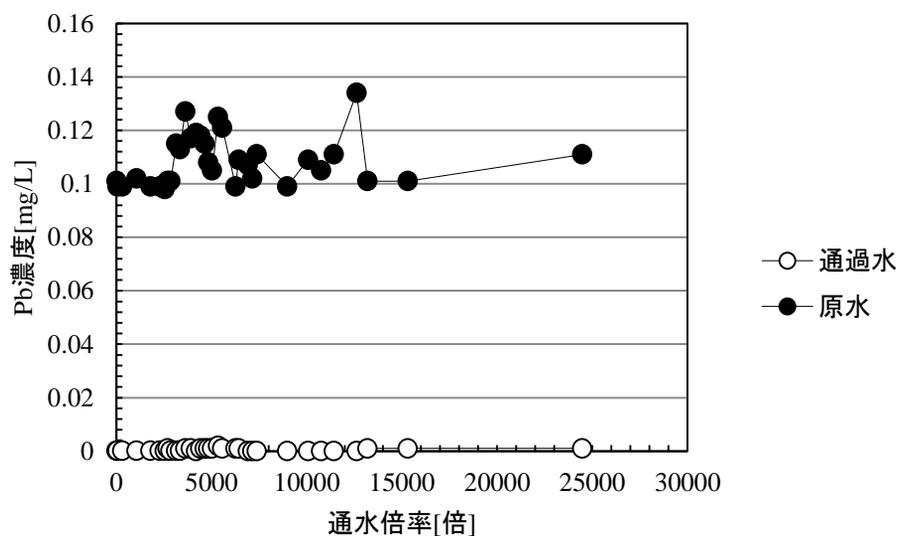
【性状】

顆粒状(粒子径0.6~1.0mm)

【カラム式模擬水吸着試験】

- ①直径30mmのカラムにCAMZ-Wを100mm敷設する。
- ②硝酸鉛を希釈し、0.05mg/Lの模擬Pb水を調製する。
- ③空間速度10h⁻¹に設定しカラム上部から模擬Pb水を注入する。
- ④通過水を回収し、0.45 μmメンブレンフィルターで濾過。
- ⑤得られた濾液のPb濃度を測定する。

Fig.1 CAMZ-Wカラム試験結果



【試験条件】

使用カラム直径…30mm
 濾材敷高…100mm
 充填濾材体積…424mL
 空間速度…10
 濾速…70mL/min

※通水倍率=通過水量/充填濾材量

【使用上のご注意】

- ・原水が強酸性もしくは強アルカリ性の場合は、中性付近に調整してからのご使用をお勧め致します。
- ・処理対象とする原水のヒ素濃度は、0.1～1.0mg/L程度までとお考え下さい。それ以上の濃度の鉛汚染水を処理する場合は、共沈・凝集沈殿法との併用をお勧め致します。
- ・逆洗は2週間に一回程度を目安として下さい。但し、損失水頭が高まり通水状態に影響が出る場合は、これ以上の頻度で逆洗を行って下さい。逆洗LV(一時間あたりの通水量/ろ過塔内断面積)は25(m/h)程度を目安とし、約20分間連続で行って下さい。
- ・通水処理の際はSV(一時間あたりの通水量/ろ材体積)=10～20、LV=6(m/h)以下を目安として下さい。
- ・ろ材をろ過塔に投入する際は、ろ材を均等にろ過塔内に配置するために、ろ過塔内に水を張った状態(ろ材が完全に浸る程度)で投入することをお勧め致します。
- ・ろ材投入後は逆洗水の濁りが消えるまで逆洗を行って下さい。(目安として約20分間程度行って下さい。)
- ・ろ過塔内の水を完全に抜いた場合、次回運転時にろ材間に空気を含んでいたり流路が制限されたりする場合があります。ろ過を一時停止する場合は、次回運転時に逆洗を行うか、ろ過塔内に水を張った状態(ろ材が完全に浸る程度)で停止することをお勧め致します。